高18回生 喜寿同窓会

湯布院温泉　個性ある人・まち。

・・・その背景　物語はひなびた寒村から始まった

昭和30年2月由布院町と湯平村が合併し湯布院町が誕生。
初代町長岩男町長の所信表明「産業・温泉・自然の山野をダイナミックに機能させてゆくことが、これからの課題」それが新生湯布院町の指針であり、湯布院町保養温泉地構想の始まり。
＊中谷氏・・・自分たちで自慢できるものを町の中に探し出して「こんな素晴らしい所がありますよ」「あんないい人がいますよ」と言い続けてきたことが湯布院の出発をかなり特徴あるものにしたのかな。基本的なスタンスは、湯布院のあちこちで温泉が湧いているという不思議な自然条件のおかげだと思う。よそ様のように温泉のある所…観光施設が占領、温泉のない所…一般住宅になるというような、ある所、ない所に自治体が分かれるようなことは湯布院町にはない。…全国的には珍しいこと。

昭和44年、岩男町長は国際会議でヨーロッパに渡り、西ドイツの伝統的保養温泉地を視察する。そこには彼が方向づけようとしていた理想の保養温泉地の姿があった。それが湯布院町クアオルト（健康保養地）構想の始まりであった。
昭和46年4月「明日の由布院を考える会」が発足…人縁・地縁・職層を越えて組織された会は、町づくりの新しい考え方や思想をどんどん取り入れた。この試みは、情報交流が限られた湯布院では際立った発想で、住民が初めて幅広いビジョンで町づくりを考え始めた。
＊溝口氏…「明日の由布院を考える会」を代表して、志手、中谷、溝口 3 人で大きな借金をして北欧 9 か国の旅をしたんだけど、ドイツではペンションやホテルのオーナーが色んな事を語ってくれた。中でも印象に残っている言葉は「**一人では何もできない。しかしその一人ひとりが意識をもって先ず歩き始めないと。運動には最低 3 人の仲間がいる**」と。
若い旅館経営者3人は50日間にわたって同地を見学。大きな示唆を受けた3人は帰国後、観光協会や議会、行政にクアオルト構想の推進を強く働きかけ始めた。
「**観光の町をつくることではない**」温泉・スポーツ・芸術文化・自然景観といった生活環境を整え、住民の暮らしをより充実し落ち着いたものにし、湯布院独自の保養温泉地を形成することである。

＊　中谷健太郎氏…旅館亀の井別荘経営者　ゆふいん音楽祭・湯布院映画祭・牛喰い絶叫大会を企画　元湯布院町商工会長・元由布院温泉観光協会会長　その他経歴多数
＊　溝口薫平氏…（株）由布院玉の湯代表取締役会長　元由布院温泉観光協会会長、その他経歴多数・ご長女桑野泉氏…元 JR 九州社外取締役・現由布院温泉観光協会会長

＜参考＞2/4　“行って良かった温泉ランク BEST100”　8位

高18回生 喜寿同窓会

門司港レトロ

明治・大正時代に海外貿易の要衝として賑わった門司港の面影を残す洋館を集めレトロ地区として整備。JR 門司港駅や旧門司三井倶楽部（**夕食予定地**）等の見どころがあります。又、近年イルミネーションも「門司港レトロ浪漫灯彩（ろまんとうさい)」として脚光を浴び、イベントとして定着しています。（**夕食後散策予定**）

○　JR 門司港駅

大正 3 年（1914 年）に建てられた駅舎で、鉄道駅舎として 1988 年初めて国の無形重要文化財に指定されました。2019 年には 6 年にも及ぶ復元工事を終え、大正時代の姿に復元された門司港駅がグランドオープンしました。

＊　＜参考＞　昨秋、現駅舎の近くに当時の初代門司駅（現門司港駅）の駅舎が開発工事に発掘され、現在地でそのまま保存か、重要な部分だけを移設・保存なのかが議論されています。専門家によりますと貴重な遺構であり、是非現在地での保存を、と北九州市に要望しています。ファンとしては現在地での保存を強く望みたいですね。

又、駅舎の横に、国鉄時代の九州総局門司鉄道管理局のビルもあり郷愁をそそられます。

○　旧門司三井倶楽部

三井物産が VIP を接待する社交クラブとして使っていた建物。１階はレストラン、２階は林芙美子記念室とアインシュタイン夫妻の宿泊を記念したメモリアルルームになっています。

＊　＜参考＞　レトロ地区整備時に門司区内の（長谷地区）から移設されました。

○　門司港レトロ「浪漫灯彩」

歴史的建造物や船だまり周辺のライトアップとコラボレーションし、門司港レトロ一帯が淡く輝く約３０万球の幻想的な光に包まれます。

＊　＜参考＞　2023 年度「イルミネーション 2023 門司港レトロ浪漫灯彩」として 10/1～3/17 まで実施。　点灯時間 17；30～原則 24；00 まで

○　下関

翌日は門司港と姉妹関係にあります本州の下関に**関門連絡船**で渡り、全国的に有名な唐戸市場を散策します。**お昼は当然市場内の新鮮な魚介類をお楽しみください。（自由昼食）**

○門司港レトロ観光・散策はガイドさんを予定いたしています。（1 名につき 10 名）
お楽しみ頂ければ幸いです。

＜シナリオライター　奥せつ子・木村津也子＞